

リビングプレス Living Press



いや～な静電気を撃退する暮らしのアイデア

冬のお悩みの1つが静電気。金属のドアノブに触れたとき、会計時におつりを受け取ったとき、突然「バチッ」とくるあの不快な静電気を軽減させる身近なアイデアをご紹介します。

Point
1

静電気が発生しやすい冬は ためずに逃すのがポイント

「静電気」は、摩擦や接触によって発生します。そもそも、人間を含むあらゆるものはプラスとマイナスの電気を持っています。通常はプラスとマイナスの均衡がとれた状態ですが、身体と衣服、衣服と衣服がこすれるなどして摩擦が生じることによってこのバランスが崩れ、一方がマイナス、他方がプラスの電気に傾き帯電している状態が「静電気」の正体です。身体や衣類にたまった静電気は、空気中の水分に触れて少しずつ放電されていきますが、空気が乾燥する冬場は、静電気が逃げ場を失い身体に滞りやすくなります。それでも、電気は流れてバランスをとろうとするため、電気を通しやすい金属製のドアノブなどに触れた瞬間、一気に電気が走りあのいやな痛みを感じるのです。これを防ぐ手軽な方法として、**金属に触れる前に、あらかじめ電気を逃がしておく**ことが挙げられます。コンクリートやアスファルトなどには、静電気をゆっくりと逃す性質があるため、いったん地面や壁に両方の手のひら全体で触れると、金属のように痛みをとまぬこともなく放電されます。

静電気を通しやすい：金属
静電気をゆっくり通す：アスファルト、土、木、石、紙
静電気を通さない：ゴム、ガラス、プラスチック



金属に触れる前に、両方の手のひら全体で地面や壁に触れる

Point
2

衣類同士の摩擦に注意 重ね着の素材を見直す

いやな痛み以外にも、衣類が身体にまとわりついたり、髪の毛がまとまらなったりと、何かとやっかいな静電気。空気中のチリやホコリも吸着させやすく、衣類汚れや、さらには花粉症などの症状を悪化させる原因ともなるため、日頃からの対策が必要です。そこでぜひ意識したいのが、重ね着をする際の素材の組み合わせ。素材には以下の図のように、それぞれプラスとマイナスの電気を帯びやすいものがあります。静電気を予防する策の1つは、図の中央に位置する綿や絹など、**吸湿性が高く水分を含みやすい天然繊維の衣類を身につける**こと。もう1つは、**プラスとプラス、マイナスとマイナス、といった同じ性質の素材を組み合わせる**ことです。プラスとマイナスで異なる性質を持つ（図の左右の間隔が離れている）素材同士ほど、摩擦で静電気が発生しやすくなるため、例えばナイロン製のダウンジャケットとアクリル製のセーター、ポリエステル製のスカートとナイロン製のストッキングなどの組み合わせは避けたほうが良いでしょう。また、スニーカーなど、**靴底がゴム製の靴は静電気を地面に逃しにくい性質**があるため、革靴などを選ぶのもおすすめです。

衣類素材の帯電列

⊖帯電しやすい		帯電しにくい	⊕帯電しやすい	
アクリル	ポリエステル	麻	綿	絹
	アセテート		レーヨン	
			ウール	ナイロン

NG コーディネート例



Point
3

プラスワンアイテムの 保湿対策で放電を促す

梅雨や夏に静電気が起きないのは、肌や髪、衣類に湿り気があり、自然放電されやすい状態にあるため。乾燥するこの季節には保湿が肝心と言えます。**喉の渇きを覚える前に水分補給**をする、**肌から水分を逃さないようにボディークリームを塗る**、**髪の毛にヘアオイルを用いる**などの対策が有効です。特に手肌は、コロナ禍による手洗いやアルコール消毒の励行で乾燥に悩まされている人も多いはず。こまめにハンドクリームを塗るといいでしょう。また、**ウェットティッシュ**を塗るといいでしょう。手で拭くと、手肌に水分を補給し、静電気を発生しにくくすることができます。室内では加湿器を使用し、適度な湿度（50～60%程度）を保つことを心がけましょう。洗濯の際は、仕上げに柔軟剤を使用するのがおすすめです。空気中の水分子と結合しやすい性質を持つため、静電気が発生しても流れやすくなるほか、生地表面がなめらかになり繊維同士の摩擦自体が起きにくくなります。

